

グループ討議	事前課題	特別な持ち物
×	×	電卓

経営幹部が身につけるべき数的知識講座

～経営を数的に解し、企業活動の本質を探る～

講座時間

10:00～16:30 (1日間)

講師名

南公認会計士事務所 公認会計士 南 俊基 氏

対象

経営者、経営幹部、管理職

ねらい

本講座では、企業活動の様々な事象を数的知識で解説していきます。経営層として数字を見るにあたっては数字を大きな流れで見る「俯瞰力」、できるだけ数値を分解して見る「分解力」、将来的に数字を見ていく「先読み力」の3つの視点が重要になります。経営幹部として最低限身につけておくべき数的知識を実際の数値を使いながら学んでいただきます。講座では、決算書の数値を中心に、実践的な数値の利用の仕方を解説していきます。

講座カリキュラム

● 経営幹部には、経営の羅針盤となる「数的知識」を身につけ、経済事象を数的に理解し、将来を予測する必要があります。また、企業の将来像を売上目標だけでなく、損益計算書の形で予測することができれば、将来の投資や企業活動について先手を打つことができます。

● 本講座では、企業活動における様々な事象を数的知識で解説するとともに、できるだけ数値を分解する「分解思考」を用いて、経営の数値化をより見えるように解説していきます。経営幹部として最低限身につけておくべき数的知識を実際の数値を使いながら体感していただきます。

● 経営幹部が必要とする数字のクセを知る

- ・「俯瞰力」「分解力」「先読み力」がポイントになる
- ・ビジネスには必ず競争力の源泉がある
- ・決算書上の数字の特徴
 - ～貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の特徴の確認
- ・コストは変動費と固定費に分けて考える

【事例研究1】月次決算書の見方、本当に理解していますか？

- ・前月比、前期比の理由を説明されて済ませていませんか

【事例研究2】決算書は税務目的の経営管理目的の2種類がある

- ・税務目的と経営管理目的は相反するもの
- ・粗利率比較は中身を見る必要がある
- ・売上原価は中身を分解しないと本質が見えない

【計算演習】利益率の変化の原因は

【事例研究3】コストを分解すると見えてくるムダ

【事例研究4】固定費中心型企業と変動費中心型企業の特徴

- ・変動費と固定費の分解方法
- ・中小企業におけるキャッシュフロー計算書の重要性

【事例研究5】黒字倒産はこうして起こる

- ・運転資本のコントロールの重要性
- ・将来の数値の動きを簡単に予測する

● 将来の企業の姿を予測してみる

- ・条件が変化したときに損益計算書はどのように変化するか
- 【計算演習】値上げ、値下げはどのような影響が生じるのか
- 【事例研究6】直近の決算書から将来を見通してみる。
 - ・将来の目標をどのように組み立てていくのか
- 【事例研究7】簡単な予想損益計算書を使って企業の将来の姿をシミュレーションする。

● 身近な行動の中の計数力

- ・前期比較はご用心 前期50%減、当期50%増は何を意味する
- ・数字のマジック 10%ポイント還元と10%割引はどちらが得か
- ・必死に進めたコストダウンの効果は〇〇%しかない

● 計数を分解してみると、違った景色が見える

- ・売上1千万円の取引先と売上200万円の取引先どちらが大事か
- 分解式①【売上－コスト＝利益】
- ・1個500円の部品と1個100円の部品のどちらを購入するか
- 分解式②【コスト＝単価×数量】
- ・売上10%増の目標で営業現場は動けるのか？
- 分解式③【売上＝商品A売上＋商品B売上＋商品C売上】
- ・2%の値下げで利益がなくなってしまう
- 分解式④【コスト＝変動費＋固定費】
- ・シェアトップの持つ意味とは ～規模効果の本質
- 分解式⑤【固定費÷販売量＝1個当たり固定費】
- ・分解式から見えてくる計数が武器になるポイント